

(一社)住環協 会員各位

新年を迎えて

会員各位

大変遅くなりましたが、新年おめでとうございます。皆様にはよい新年をお迎えしていると思います。(一社)住環協の活動報告は昨年10月10日以来です。その間、いくつかのことを考え、まとめました。

・第6期総会を皆様に連絡、はがきの承認により終了しました。私の努力不足もあってSAH会との共同研究が活動となりましたが、省エネルギーに係る性能表示の方式を確立させました。

車の燃費は今や車購入のメインの動機付けになっています。評価値はkm/リッターです。従来の表示方法では、一般道などで十分に対応しないなど省エネに関心が高まり新たにグローバルWTLTモード基準になります。さらに燃費に関心もたれるでしょう。

2020年の省エネルギー基準の適用義務化に伴い、計算値のエネルギー消費量kWhを建物の延べ床面積で除するkWh/m²で表示するはずですが。

住環協が提案する省エネルギーに係る“住宅の燃費性能”は、電気使用量kWh、もしくは都市ガス、灯油使用量の実測値を換算してkWh/m²を評価値として、国の省エネルギー対策等級★2から★4に上位に対応させる表示を設定しました。新築、既存住宅、リフォームについても同じ表示で、添え字で区分する方法で評価できます。詳しくは真の住まい通信no.35,45などを参照ください。

今後、計算値の冷暖房のエネルギー消費量の表示に対して、実測に基づく住環協表示方式は暖冷房、換気、給湯、家電証明を含む総消費の表示、及び暖冷房分離の表示は、他社との大きな差別化に有効になるはずですが。

・既存住宅のリフォームについてです。5000万戸の既存住宅に対して新築住宅が毎年60万戸と1%程度です。国の住宅政策は、まず新築住宅の断熱、省エネ化に重点を置いて、次に既存住宅の断熱リフォームと進めるとしています。一方、既存住宅は空き家の増加、放置されるコミュニティが全国的に増大して多くの諸課題を抱えています。

2020年の省エネルギー適用義務化による断熱、気密化の流れは、長い研究活動から支持をしています。ですが、新築住宅の性能向上に有効であります。リフォーム工事については、断熱、気密化を優先すると新築に近いコストがかかって、手が出せない状況で寒さを我慢するケースが多くなります。

ではどうするかについて、事例をテーマにして解説していきたい考えです。今年もどうかよろしくお願い致します。

2018年1月24日

一般社団法人住建物の音熱環境性能表示推進協会
略称(一社)住環協 理事長 山下恭弘
〒380-0928 長野市若里4-5-6
TEL 026-213-4092 FAX 026-213-4963
Mail : yamalab@angel.ocn.ne.jp
HP : <http://www.shinnosumai.com/>

